



〒892-0841 鹿児島市照国町13-42 カトリック鹿児島司教区 電話099(226)5100 振込口座 02030-2-8359 編集発行 教区広報部 1部60円年間千共1100円



今こそ「班制度の活用」が不可欠

教区評議会が永山幸弘神父がその目的と意義を力説

二年に一度開催される教区評議会が九月十四日(日)鹿児島カテドラル・ザビエル記念聖堂で開かれた。今回のテーマは「班制度の見直し」。永山幸弘神父(聖心教会主任司教)の講話で、三十年前に教区の基盤として組織された班制度が目指したものを学習した。

司教が全小教区に招集をかけ開催される「鹿児島教区評議会」のメンバーは、主任司教と小教区司教評議会を代表する信徒一人、これに司教総代理と教区書記長、教区会計部長となっている。今年の評議会には、種子島教会と古仁屋教会、それに主任司教が徳之島教会を兼任している和泊教会の三つを除く二十六小教区から主任司教二十一人、信徒代表二十六人の計四十七人が出席した。



午後一時から始められた評議会では、永山神父が「なぜ、今班制度なのか」を演題に、班制度本来の意味を再確認し、司教に邁進する教区・小教区になろうと訴えた。

永山神父によると、鹿児島教区が班を「教区の宣教司牧の根幹をなす制度」として全小教区に統一された共通の基本組織としたのは一九八二年四月のこと。以来、教区は「班を小教区の細胞」と位置づけ、信者が生きる生活の場を基盤とする地区割りの班制度を活用し、信徒一人も忘れられることがないように、また全員参加の共同体になるように訴えて来たのだという。特に本土地区では班長研修会を開催するなどして、班制度の浸透と継続を目指していたが、二〇〇五年を最後に開催されなくなり、当初の制度の

役目や目的が薄らいでいると強調した。

講話で小教区司教評議会など教区の組織についても解説した永山神父は、神父が赴任した直後の聖心教会をはじめとする奄美大島地区の教会で、班制度が理解されていなかった現状やその後の取り組みによって改善が見られるようになった共同の姿などを報告し、

「今こそ、班制度を活用して共同体を成長させよう」と強く訴えた。

講話後は、質疑応答の時間がもうけられたが、班制度を班集会としか理解していないなど制度に対する認識に小教区で差が見られ、教区を挙げて制度について学び直す必要があると感じられた。

教区本部では、今回の評議会での講話や質疑応答などの記録をできるだけ早く小教区に届け、それらから班制度についての理解を深めて欲しいとしている。

韓国入神学生ベネディクトさん助祭に叙階 求め続けて鹿児島で夢をつかむ



郡山司教に従順を誓うベネディクトさん

鹿児島教区所属の韓国入神学生ベネディクト・朴鎮亮(パク・ジョン・ヤン)さんの助祭叙階式が八月三十一日(日)、韓国は大田(テジョン)教区の大田(テジョン)教会であった。大田教区のラザロ(ユー・フン・シク)司教も出席。ラザロ司教主司によるミサの中、鹿児島教区郡山健康次郎司教から助祭叙階の秘跡を受けた。

ベネディクトさんは一九七〇年生まれ、四十三歳。叙階式のあった韓国の徳山出身で、



新助祭

長年、修道会や神学校などで司祭を目指し学んで来たが道が開かれず、今年の春、鹿児島教区の門を叩き、この度の助祭叙階となった。叙階式がささげられるのは初めてのことで、ベネディクトさんは力強く受け答え、従順を示すうづ伏せの後、郡山司教から按手を受け助祭の聖位に上げられた。

ミサ後、ベネディクトさんは鹿児島教区の司教・司祭・信者をはじめ、大田教区、徳山教会、日本での韓国入神学生召命のための後援会など、念願の助祭叙階まで支援を惜しまなかった関係者に感謝のあいさつをした。また今後について、「鹿児島教区の宣教のために尽力したい」と抱負を述べた。

徳山教会主任司教のヨハン・ボスコ(キム・ジェ・ Chol)神父は「ベネディクトに召命の機会を与えてくれた郡山司教と、ラザロ司教を迎えて共に叙階式のミサをささげることができて光栄」と感慨深げな様子で、「徳山教会にとって記念すべき喜びの日となった」と語るとともに、「ベネディクトが鹿児島教区で役立つ者となるよう今後、祈っていきなさい」と話した。(報告 諏訪勝郎神学生)

司祭団が典礼を学習 九月のコンベンツス

九月十六日(火)に教区本部で開催された定例司祭集会(コンベンツス)では、司祭たちによる典礼の学習が行われた。この日、典礼の解説をしたのは日本カトリック神学院福岡キャンパスで教鞭をとる白浜満神父で、司教をはじめ司祭と終身助祭ら三十五人が熱心に学習した。



10月19日は「世界宣教の日」 海外にも目を向けよう

世界にはまだキリストを知らない人がたくさんいます。日本でもわたしたちはキリストを知らない人たちに囲まれて生きています。キリストを伝えることである宣教は、神の子ども、キリストの弟子となったわたしたち皆に与えられている使命です。

教区人事

- ▼泉 浩二神父は九月一日付けで教区事務局長(書記長)及び教区会計部長
- ▼寝占敦之神父は八月三十一日付けで教区事務局長

司祭の消息

▼美島春雄神父は今夏、体調を崩したため、鹿児島市内の病院で静養

(書記長)及び教区会計部長を解任

司教執務室便り

ロザリオを手にしよう

聖信式にはプレゼントのロザリオを持参することにして... 韓製やベトナム製、遠くはメジゴリエからのもあります...

苦しみの神秘、そして栄の神秘の四つの神秘を全部暗記して... 学校の行き帰り、休み時間など、ポケットのロザリオをそと握って...

福音を理解するためにはキリスト教の歴史観を理解しておく必要があり... キリスト教の歴史観とは始末と終わりがある直線的なもの...

朝ミサが賑わってます 紫原教会 紫原教会の平日のミサは、金曜日を除いて朝六時三十分からさざげられます...

カトリック幼稚園便り 毎朝のミサは教会のお隣にあるイエスのカリタス修道女会紫原修道院のシスターと信徒十五人あまりで...

名瀬信愛幼稚園 週の日曜日から金曜日まで、子どもたちの耳元で鳴り響くアンジェラスの鐘...

十字架の道行&日帰り黙想会 日時：10月26日（日）9時半ミサ～16時 場所：マリア山荘 会費：1000円（昼食代含）

+KABAYAN SEKSIYON+ Pananampalatayang Batay sa Eukaristiya: Tunay na Presensiya ni Kristo Naniniwala ang mga Katoliko na si Hesus ay totoong nasa Eukaristiya sa kanyang katawan at dugo...



繋がった心と心

出水教会で九州青年キャンプ

「KYC(九州青年キャンプ) in 鹿兒島2014」が八月二十三日(土)から二十四日(日)まで、出水教会であった。今年のテーマは「オイもワイも皆きょうだいじゃっど!」和・輪・笑。九州管内各教区を中心に神の子として集った青年たちが、祈りやプログラムを通して「きょうだい」とは何かを自らに問いながら交流、「和と輪」を育み、絆を深めた。

第一日

参加者(司祭・修道者等含む)は鹿兒島教区十四人、長崎教区十人、大分教区六人、福岡教区一人、東京教区一人、大阪教区一人の計三十三人だった。

出水教会に集合した青年たちはオリエンテーションの後、早速プログラムである水俣市立水俣病資料館見学へ。まず水俣病問題の概要を説明するビデオを全員で視聴しその後、各自で館内を見学した。

次いで水俣教会を訪問。水俣病犠牲者を思い祈りをささげた後、同教会主任司祭である一ノ瀬輝幸神父の



郡山司教を囲んで記念撮影

第二日
ラジオ体操と朝の

話を聞いた。「水俣が所在する熊本県には水俣病のほか、菊池恵楓園(ハンセン病療養所)や『赤ちゃんポスト』などの問題も」と一ノ瀬神父。「カトリック信者としてどのように向き合っていくべきかを考えてほしい」と述べた。

出水教会に戻った青年たちは五つの班に分かれ、水俣病問題について分かち合いをした。分かち合いでは「傾聴・共感・信頼」を心構えとし、水俣病資料館見学と水俣教会訪問を通して各々が感じたこと、考えたことを語った。

その後の夕の祈りは「主ゼ・スタイルでなされ」「ここそまことの救い」「あがめよたえよ」「たたえよ神を」など五曲が歌われた。そして歌の合間にはマタイの福音書などが朗読されるとともに熱心な祈りがささげられた。

祈りの後の朝食は奄美の味「鶏飯」。パイアの漬物やシークアソーサーの皮(みじん切り)も具に加えたさわやかな南島風味に舌鼓を打つ青年たちだった。

KYCに参加して

と要望し、福音書の一節を引き、「イエスさまは『わたしはあなたがたを友と呼ぶ』(ヨハ十五・15)と言われた。ならば、わたしたちは友だち甲斐のある兄弟姉妹になりませんか?」と語りかけた。

ザビエル 武川真義

今回のスタッフとしても参加者としても初めてのキャンプでした。同じ信仰を持った人々と多くのことを学び、考え、そして仲良くなれました。とても有意義な泊二日になりました。

東京教区 伊藤 哲

鹿兒島らしいノンビリとした歓迎、温泉最高! 水俣に行けたのも良かったです。鶏飯、お店のより美味しかったです!



長崎教区 小原誠也

この青年キャンプは五度目の参加になります。出水キャンプは私自身を再度見つめ直す機会となり、この二日間得たことを糧に目標を見つけ実りあるキャンプとなりました。

福岡教区 浜口百合恵

二日間いろいろなことを学び、テーマ通り他教区の青年と兄弟のように楽しく過ごす事ができて良かったです。

パン種

教会にはさまざまな人が訪ねてきます。その人たちの話に耳を傾けていますと、現代社会が抱える問題が目の前に迫り、胸が潰れそうになることがあります。

この数年でも、特に若い世代の人たちの中に、貧困に苦しむ人が増えています。不況で父親が失職し、間もなく両親が離婚し、母方の

愛の実践を伴う信仰

実家で育てられ、中学を卒業してから職を点々と変え、定職のない青年がある日、司祭館のチャイムを鳴らしました。

彼は教会の表にある掲示板のみことば「疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのよこにきなさい。休ませてあげよう」(マタイ十一・28)を見て、入って来たと言いました。

ここ数日、まともな食事を取っていない、と話しました。行政の窓口の対応も、若い彼にはとても冷たいものであったようです。生活困窮者を積極的に支援してゆこうとする方向にない国や行政の対応を非難することは易しいです。ただ、避難するだけで現実には目の前にいる苦しむ人にかかわることを避けていては、

「愛の実践を伴う信仰」(ガラテヤ五・6)からは、ほど遠いものとなります。みことばが彼の飢えを癒したところを、まず満たし、そして私は「あなたがたが彼に食べ物を与えなさい」(マルコ六・37)と言う、主のみことばに従い、彼の現実の飢えを癒すための小さな助けをしました。「いつでも訪ねて来るように」と言つて帰したものの気にかかります。(玉里教会主任司祭・小隈憲士)

会と催し (10月)

- 4日(土)「マリッジエンカウンター」・教区本部・13時30分
- 5日(日)年間第二十七主日
- 12日(日)デクルス神父命日(一九八〇年)年間第二十八主日
- 18日(土)アッシュヤー神父命日(聖マックス)聖ルカ福音記者
- 19日(日)宣教学校・ザビエル教会ホール・13時30分年間第二十九主日
- 20日(月)世界宣教の日(献金)
- 23日(木)レデンブートル会例会
- 24日(金)ユークキョット学習会・教区本部・18時
- 26日(日)大水如安神父命日(一九九四年)年間第三十主日
- 27日(月)オリープの会・教区本部・14時
- 28日(火)大松正弘神父命日(聖ジェラルド)
- 31日(金)聖シモン 聖ユダ使徒

【ノベナ】

祈りの意向
マリアさまに做つて「なれかし」の心で毎日のすべてを受け取ることができまますように(1日~9日)。

【祈禱の使徒会】

世界共通・平和
宣教・世界宣教の日
日本の教会・諸宗教対話

カトリック通信講座

<全7講座>

- T001 キリスト教とは=キリスト教の概要
- T002 聖書入門〔I〕=四福音書(イエスの生涯)
- T003 キリスト教入門=秘跡や信仰生活(洗礼準備にも)
- T004 神・発見の手引=人生、自然を通して神へ
- T005 聖書入門〔II〕=使徒言行録・書簡・黙示録
- T006 幸せな結婚=結婚の意味や愛、幸福
- T007 生きること・死ぬこと=命に関する問題

『聖書入門〔I〕』のコラムには、Sr.渡辺和子も登場。

<受講料> (教材費・税込)
T001~T004 各4800円
T005~T007 各5300円

<お申込み>

郵便振替用紙にご希望の講座名・講座番号(T001~T007)をご記入の上、下記にお振込みください。入金確認後教材をお送り致します。
振替口座番号: 00170-2-84745
加入者: オリエンズ宗教研究所
<お問い合わせ>
オリエンズ宗教研究所
「カトリック通信講座」
Tel: 03-3322-7601
Fax: 03-3325-5322
URL: <http://www.oriens.or.jp>
※詳細はホームページをご覧ください。

アジアニューステデー報告

鹿児島からも青年二人が出席

第六回目のアジアニューステデー(AYD)が、八月十日〜十七日にかけて、韓国(大田)で開催された。AYDはアジア二十八个国のカトリック青年が集い、ホスト国の文化・社会と教会の福音的な取り組みに触れながら「典礼」「体験学習」「ホームステイ」「文化交流」「自国紹介」など、八日間、共に祈り、学び合う機会であり、同じ信仰を生きてアジアの兄弟姉妹と出会う、連帯と信仰を深める青年大会。

二千名の参加者が集まり、祈りや出会い、分ち合い、講話、巡礼などを通して自分の信仰を見つめるプログラムに参加した。教皇様を迎える式典などは、同時に開かれていた韓国青年大会(KYD)と合流し、六千人ほどの規模に膨れ上がった。日本から参加した多くの青年たちは、その力強さに圧倒され戸惑いながらも、その一員に加わっていく姿があちこちで見られた。内容が盛りだくさんで、宿舎に帰って就寝できたのが夜中の三時という日も数あったことは確かである。教皇様は司式の閉会ミサで「目を覚まし、若い力を信じて、恐れずにいつもキ

AYDで感じたこと

教区からの出席者の感想

今回のテーマは「アジアの若者よ。目覚めよ！殉教者の栄光があなたに輝く。」で日本からは約百人が招待され、鹿児島からは司教様をはじめ二人の青年と司祭一人が参加した。

吉野教会 高竿祐貴
私は今回初めてAYDに参加し、沢山の経験をする事ができました。

八月十日〜十三日まではウオンジュ教区で過ごし、教区の信者さんやホームステイ先の家族から温かい歓迎を受けました。初めて会ったばかりの私たちに、優しく細かい気遣いをしてくれることにただ驚いてばかりでした。

大会中のプログラム一つひとつが良く準備されており、韓国の教会の歴史や文化、伝統などを学んだり体験したりすることができました。

八月十四日からの本大会も同じことが言えますが、同じ信仰を持つているというだけで国籍や性別、年齢、職種など関係なくすぐに打ち解けることができるということに感動しました。

リストを証しするように」と励まし、別の機会も交え中国と北朝鮮にみえる分裂の痛みが和解によって解かれることを述べられていた。また、このミサで鹿児島から参加の高竿祐貴(吉野教会)さんが共同祈願を唱えたことは、本人にとっても私たちにとっても大きな恵みであった。次回は、二〇一七年に開かれることが発表され、シンボルの十字架がインドネシアの青年へと引き継がれ、翌日、帰国の途についていた。(報告 石田望神父)

今後、自分にできることを一生懸命頑張りたいと思います。

谷山教会 岩崎信幸

私が今回のAYDで最も強く印象に残ったことは、毎日他国の人々と英語で交流し、信仰について分かちあったことです。

国や地域によってカトリックのあり方はまったく異なっていますが、同じ神さまを信じているというだけで、様々な違いを乗り越えて一つになることができました。ように思います。分かち合いを通じて、自分の信仰の原点について、殉教の意義について考え直すことができました。

ザビエル上陸記念祭によせて

教区巡礼委員 當 二一恵子

ザビエルさまが熱い思いで日本に、しかも鹿児島(薩摩)の地に最初に足を着いたことを現代の私たちはどう受け継いでいくことができるだろうか？

この出来事は私たち鹿児島教区の財産でもあると思います。しかし、ややもすると忘れがちであり、マンネリ化して、通り過ぎていないでしょうか？

今の私たちカトリック信徒としての生活、ミサ、教会活動、勉強会、巡礼などなど、これはザビエルさまが日本に、ましてや鹿児島に最初に足を着いたという

文芸 短歌

鴨池教会 前田 儀子
雨の中身をかがめ咲く瑠璃茉莉のかげに蜥蜴は黒き頭を退く

アンタレスの巨星やがてその一生を終へむ星の約束
鹿児島純心 川上 和

夏雲や装いあらたなザビエルの古き祭壇輝いて見ゆ
ラファエルの水汲む森のすがすがし一杯受けて感謝にみちる
出水教会 遠竹 睦郎

七十七の喜寿なる教会の敬老会祝福受けて皆と語らふ
私に神さまに願うことではなく、「神さまが」私に何を期待しているのかを考えてゆくことが、今後の自分なりの課題であると強く実感しています。

また、多くのアジアの人々とのふれあいを通じて、これを日常的なものにしたいと思うようになりました。今私が携わっている教区の青年会活動も、より多国籍なものにしてゆきたいです。

最後に、AYDへの参加を後押しして下さいました壮年会の皆さま、谷山教会の皆さまに感謝したいと思います。

国分教会 市来 房枝
ねじ花は冴ゆるピンクの小花付け草の根方に楚楚と咲きある
他人のこと許さぬならば吾の罪赦さざれしと肝に銘じぬ

朝夕の祈りに負けじとせみ合唱
夕ぜみや名残の森を盛りあげる
霧島市 政 ノブ子

天高く十字架こえる親子鳥
水害の命の重さを秋の虫
鹿児島市 徳永ノブ子

ミサ聖祭行う司祭さわかやかに
祭壇の花や月桃島思う

福者レオ税所七右衛門

殉 教 祭

2014年11月16日(日)

プログラム

- 12:30 集合(京泊教会跡地)
- 13:00 祈りと聖歌 ※川内教会へ移動
- 14:50 セレモニー
- 15:00 殉教記念ミサ
- 16:00 殉教地巡礼
- 17:00 解散

主催：カトリック鹿児島教区



ことから始まっています。このことをいつも忘れがちではないでしょうか？

ザビエルさまはわざわざ八月十五日、聖母の被昇天の日に合わせて来日されたそうなんです。

数年前、長崎のある教会に行った時のことです。その教会の信徒の方から「どこから来られたのですか？」との問いかけに「鹿児島から来ました」と答えたら「日本で一番最初にザビエルさまが上陸した場所ですからザビエル祭って盛大にやりますよ」と言われ、私は恥ずかしく、返事に困ったことが忘れられませんでした。

私たち鹿児島教区の信徒は八月十五日のこの日をザビエル上陸記念日として、誇りに思い、心に記憶させたいと思います。今年のザビエル祭は信徒の方々の協力のもと、ミサ後、ランチ・茶話会をユネスコ協会の方々と楽しく一緒に出来たことを嬉しく思い、心から感謝致します。(谷山教会信徒)

